

創作舞台

野里国民学校

80年前、この鹿屋に集まった優しい男たちの物語。



だから笑ってくれ。

2026 8/22 [SAT] 開場:16時30分 開演:17時30分 • 8/23 [SUN] 開場:12時30分 開演:13時30分

鹿屋市文化会館

〒893-0007

鹿児島県鹿屋市北田町11107

鑑賞
料金

前売り券 **1,000円** 税込
(当日券 **1,500円** 税込)

※全席指定 ※未就学児入場不可

プレイガイド

鹿屋市文化会館 TEL:0994-44-5115

リナシティかのや3F売店 TEL:0994-35-1001

電子チケット

teket ※二次元コードよりお買い求めいただけます。

お問合せ

鹿屋市教育委員会 生涯学習課 TEL:0994-31-1138



駐車場に限りがありますので、公共交通機関や送迎・乗り合わせでのご来場にご協力ください。
車椅子席をご利用のお客様は、鹿屋市文化会館(0994-44-5115)まで事前にお問い合わせください。

チケット販売日

▶ 先行販売(電子チケットteket)
7/20(月・祝) 11:00~

▶ 一般販売(鹿屋市文化会館、リナシティかのや、電子チケットteket)
7/25(土) 11:00~

◎主催: 鹿屋市教育委員会

◎制作: 株式会社ニライスタジオ

創作舞台「野里国民学校」

～ 2025 年戦後 80 年の節目に作られた舞台がまた帰ってくる ～

太平洋戦争末期、最も多くの特攻機が飛び立った鹿屋。作家である山岡荘八や川端康成などが従軍記者として鹿屋に赴いていた事実はあまり知られていません。特に山岡荘八が朝日新聞に残した「最後の従軍」というルポタージュには鹿屋基地から特攻に向かう若者の姿が事細かに記されています。基地のすぐそばにあった野里国民学校は、そんな彼らの寄宿舍でした。特に学鷲と呼ばれる高等教育機関を出た後に従軍した若者たちは、この国の未来と、自身の将来や夢とをひき替えに、南の海へと飛び立ったのです。従軍記者が記した記事を原作に、特攻兵たちの葛藤や野里での暮らしを描いた創作舞台「野里国民学校」。物語は実際に残されているエピソードをもとに作られました。鹿屋には何年経っても語り継がねばならない歴史があるのです。



山岡荘八「最後の従軍」の文末より

・・・まだまだ署名帳を見てゆくと、思い出は限りない。私にはこの野里村は自分の生涯で再び見るこのできない天国のような気がする。あらゆる欲望や執着から解放された人々が、いちばん美しい心を抱いて集っていた・・・そう思えるのも、実は「諸君だけは殺さぬ」口ぐせのようにいっていた彼らの上官もまた、みなそれぞれきびしく責任を執っていたからでもあろう。とにかくこの特別攻撃を、やむなく考え出した後の軍令部次長大西瀧治郎中將も、第五航艦の司令長官宇垣纏中將も、そして司令の岡村基春大佐もみなそれぞれ彼等との約束を厳しく守って自決していった。

私の見聞の限りではみじんもウソのなかった世界・・・それだけに私もまた生涯その影響の外で生きようとは思っていない

(朝日新聞・昭和 37 年 8 月 6 日～10 日)

CAST



片岡清役
藤川雅画



中岡 莊吉 役
村山 創太



西村 正光 役
前田 真輝



松島 少尉 役
今吉 勇貴



本城 新作 役
吉永 蒼天



河本 中尉 役
芦田 壮太郎



守島 大尉 役
曾木 丈一郎



岡元 司令 役
重山 茂仁



ミドリ 役
浜田 歩乃花



サクラ 役
前原 佳乃



西村の母 役
隈元 莉々亜



西村の妹 役
濱田 彩希



現在のサクラ 役
新留 陽色



孫娘の婿 役
浜田 優太



野里の母 役
吉永 怜奈



牧田特攻兵 役
前原 京平



野里の子 役
加連川 にじ



野里の子 役
桑鶴 涼花

アンサンブル / 赤狩山 心愛、戸高 煌大、星野 菜奈、星野 杏奈



写真：山岡 荘八氏



作・演出・音楽 松永太郎 / 演出補 入本敏也 / 振付 寺下貴展・和希

舞台監督・美術 竹下幸次 / 舞台 岩永忠治、向高明大、小田望月、重田美咲 / 音響 佐藤芳隆 / 照明 小森俊彦、小森沙季

衣装 前原佳代 / 制作 宮西亜弓、加連川美雪 / 演奏 桑畑秀教、上谷耕平、延時昂佑、永志保、松永太郎 / アートディレクション 要田とおる

主催 鹿屋市教育委員会 / 脚本協力 鹿屋航空基地資料館 / 制作 株式会社ニライスタジオ